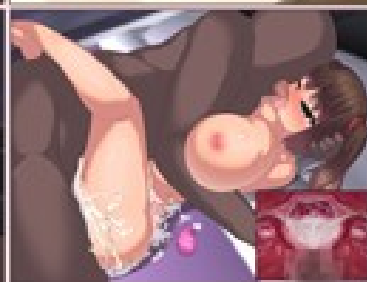


はあ・・・後でこの匂い思い出してオナニーすりゅう・・・

性欲にすぐ負けちゃう幼なじみ♀とホームシェア



「ちゃんと我慢できるし！」



「んっ。。。あっ！。。。あっ、ああああ。。。んうっ！。。。」

あっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



コンコン

「入るぞ」

「またスマホ見てオナニーしてるのか・・・おい」
「んう・・・ふあ・・・」

「おいってば」

んう・・・♡

ビク
ビク

ん

「・・・ふん？」



「なっとなななに勝手に部屋にはいつてきてるのお!」
「ノックしたんだけど。。。」

子供の頃遊んでた歳の離れた近所の女の子

俺が就職して実家から離れてからは会ってなかったけど
彼女の進学と同時に俺の所に転がり込んできた

知ってる仲だし部屋も空いてたので、特に考えず受け入れたが
まさかこんな頻繁にオナニーする奴だったとは。。。
近隣住民の問題になったらアレなので
さすがに伝える事にした



「・・・ぞ、そんな声でかかったの？」

「うん」

「もしかして外にも聞こえてたり」

「おれおれ」

「おれおれ」

「大丈夫だと思いたいけど、そういう日もあったかも・・・」

「・・・（あああああああああ！）」



「。。。いや、そんな事無いし!」

「恥ずかしいのは分かるけど実際声がだな」

「無いもん!無い無い!」

「。。。」

うぐぐぐぐぐ
ぐずぐず

?

「よし分かった、証明するからこっちこい」

「えっ、しょうめい?」



「ええと。。。なにされるの？」

「これから俺がいたずらする、もちろん我慢できるよな」
「うっ」

「さっきあれだけ言ったんだからそりゃねえ」

「うう。。。」

いん。。。。

「ようは声を出さなきゃ言いんだ、簡単だろ？」

「の。。。のぞむところよ」

「我慢できなかったら何でも言う事聞けよ」

「えっ。。。う、うん！いいよ！」



「わっわー」

「ほら声出さない」
「うう。。。」





「.....」



「こんなされたら。。。んう。。。でちゃうよ。。。ひっく」

「な？結構大きな声出てただろ？」





うっ
...

んっ

ドキ

ドキ

「うっ・・・ほんとにするの？」

「何でもするって約束したろ」

「それはその・・・わ、わかったよお・・・」



(気持ち良いのかなあ・・・？)

「すげえいいわ・・・やべっもう出るう」

ん

ガッ

たゅん

ズッ

あ

たゅん





「ふうすつきりした、舐め取って」
(これが精液。。。ドロドロだしすごくエッチな臭い。。。)

「じゃあ明日もがんばろうな」
「・・・えっ！」

「ちゃんとお前が我慢できるまで面倒見るから安心しろ」
（そういえばこうなったのは私のせいなんだけ）
「う、うん、よろしくお願いします」



(気のせいとお兄ちゃんが近い……)

(昨日の事思い出しちゃったよ)



（身体触りすぎな気がするけど、意識してるって思われたくないし）

（ああ、うずく、後でオナニー……。ああしちゃだめだった……。どうしよう……。）



(指が当たってる・・・もつと強く触って欲しいのに・・・)



(んむう・・・もつちよつと・・・ふあ・・・)

「あっ……」

（触るのやめちゃうの？）

「そういえば欲しかった本の発売日が今日だったわ」

「すまんが留守番頼んでいいか？」

「うん……。うん？あぁ、いいよ、留守番できる」

「そっかーすまんな」

（よかった、オナニーできる……）



玄関のドアが閉まる音がした
「……行ったのかな、今のうちに」



(あんな触られたらもう濡れちゃって……)
(……あっ……気持ちよくなってきた)

ガチャ
「ふえ？」



「やっぱり我慢できなかったか」
「お、おにいちゃん！」



「これは罰が必要だな」

「なっなにするの！？痛いことしないで！」
「痛くなきゃ罰にならんだろ、裂けないようにはしてやるよ」
「えっえっ、お尻に何塗ってるの、やだよだっ！」



「よし力抜けよ」

「なっになにを……」

www





「。。。くはあ、やっぱ初アナルはすげえキツいな」







「これに懲りたらオナニー我慢しろよ？」

「ふあ。。ふあい。。。」
（今のを思い出して後でこっそりオナニーしよっと。。。）

「それで今日も特訓するの？」

「なんか言いように使われてる気がするんだけど」



「そんな事はないぞ、全てはお前のためだぞ」

「そうかなあ・・・」

「じゃあやめる?」

ム

シキシキ



「えっ、いや……するけど……」





「あぐらっー」

んんっ♡

っ

っ

ぽんぽん

っ

「。。。あえ？」



「なっなんで途中でやめちゃうのおー！」

「我慢する練習だろ？」

「やだやだ最後までしてくれなきやだあー！」



「全く誰のための特訓だと思ってるんだ」

「今回だけだぞ」





「ちつとも我慢できるようにならないな」



「明日も特訓する？」

「はひ・・・まいにちすりゅ・・・」

「もおゝ部活中だったのに」

「せっかく家に忘れてた弁当持ってきてやったのに
ひどいなあ」

「それについてはありがとうだけども……
すぐ終わらせてよ？」

「話が早くて助かるぞ」

（だってその……大きくなって……）





(早く終わってえ・・・)





「じゃあ用事終わったし帰るな、部活がんばれよ」



「今日は忘れ物なんてしてないでしょ？なんで来たの」

「いや暇だったから」

「。。。」

「うう、誰かにばれたら大変な事になっちゃうのに」

「それでも付き合ってくれるから好きだよ」

「も、もう。。。すぐ済ませてよね？」





う

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

グニヒ

グ

ニヒ

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡

う

「ちょ。。ちよつとお兄ちゃん。。誰か近づいてるみたい。。」
「静かにしていれば来ないさ」



（んんう。。。。はやく。。。。おわってえ。。。。）



話し声は遠ざかっていった

「はあ。。。はあ。。。うう、心臓にわるいよ。。。」

تاریخ



今日はラブホテルに来た

「何でこんな所に……。入り口ですっごいドキドキしたんだけど」
「ここなら我慢しなくていいだろ？」



（もう目的が変わってるもんなあ……。まったくもう）

「あんっ、そんなと舐めないで」

「さっき一緒に風呂入って洗ったから大丈夫だろ」

「そういう事じゃなくて……うう」

ひゃっ!!



チュッ

ドク

ッ

チュッ
チュッ
〜…



(ああ、すっごい舐めてる。。。私のオマンコあんな音立てて。。。
。。。あつ。。。んくう。。。っ！。。。)





「そろそろ挿れるぞ、聞してる？」



「聞こえてないな、まあいいか せーの・・・」







「ふう・・・すげえ出たわ、ところでさつき派手にイッてたけど大丈夫か？」



「もっとお！もっとするのぉー！」

「はいはい」

数時間後

「ゴム無くなっちゃったな。・・・生でしている？」

「うん」

「うん」

「うん」

「うん」

「えっ、うーん。・・・」

(すっごく気持ちよさそうだけど)

「ちゃんと外で出すから、な？」

「・・・それなら」





(んあ・・・きたあ・・・生ちんぽきた・・・ああつ・・・)



（腰を密着させて逃がさないようにしてる？・・・もしかして・・・）

A hand-drawn diagram of a cell. The cell is represented by a large, irregular shape with a thick, dark brown border. Inside the cell, there are two smaller, irregular shapes, each labeled with a lowercase 'h' in a light blue, handwritten font. The background of the slide is a solid light blue.

7/1
7/2
7/3
7/4
7/5

ググッ

[illegible]

(やっぱりそうだ)

(子宮口に押しつけながら腰の動きが小刻みになってきた)

（このまま中に出す気だ……私を孕ませる気なんだあ……）

グ
グ
グ
グ



「はぁ……。射精とまんねえ……」

「ふぁぁ……。いっぱい出てくる……」

んっ♡
んっ♡
んっ♡

ちゅっ
ちゅっ

ドッ……

トッ……
トッ……

んっ♡
んっ♡

グッ
グッ

……

「ずっとこうしかったかった、今日は空になるまで犯すからな」

（……。もっとしてもらえるんだ）



あれから数週間
場所はいつものラブホテル



「あっ……もう出そうなの……」



「はぁ・・・いっぱい出たね、えへへ」
「。。。」



「どしたの？」

「あの時に比べたら全然変わったなあって」

「そりゃ・・・いっぱいエッチしてもらったし、ね？」

「そういえば・・・我慢できなかったのは私より
お兄ちゃんだったわけだけど反省してるの？」

「うっ、はい、すみません・・・」

「あの時いっぱい中に出されちゃったし」

「はい・・・」

「そりゃ赤ちゃんもデキちゃうよ」

「はい・・・」

「=3」

「。。。えっ!」



「デキないわけないよね？」

「どうしょ」

「どうするも何も一緒に住んでたらデキちゃったって
実家に帰った時に言うしかないでしょ？」

「やっぱりそうだよな。。。」

「まあそれは後で考えてもう一回しようね？」

「ははは。。。はい」

禁欲なんてするもんじゃないな



おしまい



























































































































